



放置竹林の利活用とタケノコ食材を用いた認知症予防

～地場産業を創出して地域に根ざした新たな価値と雇用の場を生み出す～



研究シーズ概要

風光明媚な里山の自然や豊かな天然資源を有効利用し、地域の将来を担う若者の流出や、集落機能の衰退に歯止めをかけることを目的として、地域が持つ資源を活かした「発酵産業」などの地場産業を創出し、地域に根ざした新たな価値と雇用の場を生み出すことを目指します。これにより、現在地域に暮らす若者や高校生が将来地元に戻る選択肢を持てるように環境を整え、また自治体が呼び込む移住者にとっても魅力ある「就労の場」「生活の場」を提供できる基盤を築いていきます。持続可能で活力ある村づくりの実現に向けて、産学官が連携し、地域資源の高度活用と技術開発を推進していきます。



利点・特長・成果

本研究では、里山に存在する未利用資源（杉の間伐材、放置竹林、果樹資源など）の有効活用をテーマに取り組んでいます。特に、竹の可食部であるタケノコに注目し、品種や産地によって機能性成分の含有量が異なることを明らかにすることで、タケノコを機能性食材として利用する可能性を広げつつあります。また、放置竹林を植物バイオマスとして活用し、機能性資源へと変換する研究も進めています。これらの取り組みと並行して、地域資源を活かした発酵食品の開発にも注力しており、地域に根差した持続可能な食文化の創出に貢献することを目指しています。



その他の研究シーズ

- 生体酸化ストレス低減化技術の開発（食材・化粧品）
- 動物忌避剤の開発
- 内分泌攪乱物質の利活用
- アマモによる海洋環境保全技術の開発



キーワード

竹、発酵、香料、化粧品、健康、六次化、動物忌避、海洋生物、微生物、化学生態学

本技術に関し、対応可能な連携形態（サービス）

知財活用	可	技術相談	可	共同研究	可
施設機器の利用	可	研究者の派遣	可	技術シーズ 水平展開	可

開発段階

5	第5段階	製品・サービス化（試売／量販）段階	2	第2段階	試作（ラボ実験レベル）段階
4	第4段階	ユーザー試用段階	1	第1段階	基礎研究・構想・設計段階
3	第3段階	試作（実証レベル）段階			

SDGsの目標

